

## 編集後記

### Editor's Note



2020年はCOVID-19の影響により、人々の行動や価値観が変わった年でした。PMI日本フォーラムもオンラインおよびオンデマンド開催となりました。そして、オンデマンド配信により、非常に多くの方々に講演や研究会の発表を視聴していただくことができました。片江会長も多くの研究発表を視聴し、「何か文書として残せないか」というお話がありました。私たち理事は、かねてより「支部の研究成果を論文のような形で発表できないか」という話をしていましたが、なかなか実現にいたらず、今年、ようやく実現に至りました。まだ、組織として論文を扱う体制や方法も確立しておらず、時間はかかると思いますが、まずは、世に何かカタチのあるものを出すことを目指そうということになりました。「部会に参加している会員の研究報告としてのまとめ」ということで当初は「会員研究報告書」という名称で進めていました。報告書は紀要や技報といった扱いで発行することといたしました。発刊にあたり、正式に名称を「プロジェクトマネジメント研究報告」としました。

理事やアクティブメンバーの大学の先生方を中心にチームを立ち上げ、推進することとなりました。報告書の要領や受け渡しフローなど、事務局の方に非常に多くの支援もいただきながら、手探りで始動でした。募集する報告書は、プロジェクトマネジメントに関係する研究であれば良いという広い範囲のテーマで募集し、研究会参加者の会員の方から研究会を通して応募をいただく、という限定版から始めました。

全く応募が無かったらどうしよう、という危惧もありましたが、13の研究会から18編の応募がありました。まずは、良かった、と安堵しました。その後、報告書の提出、文書チェック、レビューのやりとりと続き、半年ほどの短い期間での活動になりましたが、筆者や研究会の方々、そして、レビューアーの先生方や事務局の方々のお陰でなんとか、予定していた期日までに発刊することが出来ました。

PMI日本支部・プロジェクトマネジメント研究報告は、PMI日本支部の研究成果として文書化した「はじめの一步」として、会員・非会員問わずに広く読んでいただき、多くの方々に役だてていただける報告となればと思っております。

今回、応募いただいた会員・部会の皆さま、レビューアーとしてチームにご参加いただいた方々、細やかな支援をいただいた事務局の方々に心より感謝をいたします。

プロジェクトマネジメント研究報告 編集長

PMI日本支部 副会長 浦田 有佳里

Yukari URATA

Editor-in-chief, *Project Management Research Report*  
Vice President, PMI Japan Chapter